

開催月日 : 2023年 9月 23日

2023年度第1回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

施設長	ホーム次長	支援センター長	ホーム係長	ホーム兼訪問主任	記録

時間	am/pm 10:00	am/pm 11:00	場所	かんだ連雀2F
議長	尾崎 正紀		書記	渡嘉敷 和也
出席者	○千代田区高齢介護課介護事業指定係:●●●●●様			
	○千代田区社会福祉協議会:●●●●●様			
	○千代田区高齢者あんしんセンター:川島典子(神田地区)			
	○医療機関:●●●●●様(三楽病院)			
	○医療機関:●●●●●様(杏雲堂病院)			
	○医療機関:●●●●●様(九段訪問看護ステーション(連携))			
	○医療機関:●●●●●様、●●●●●様(アクア訪問看護ステーション(連携))			
	○地域住民の代表者:●●●●●様、●●●●●様			
	○知見を有する者:●●●●●様(八丁堀ケアプランセンター)			
	○知見を有する物:川上朋美様、梶新一郎様(神田居宅)			
○指定事業者 かんだ連雀いつでもサポートサービス:中村小夜子、尾崎正紀、渡嘉敷和也				
議題				
確認事項	議長			
	出席者			
会議内容	①開会の挨拶 かんだ連雀:中村小夜子			
	②取り組み事例発表 かんだ連雀いつでもサポートサービス:尾崎正紀、渡嘉敷和也			
	③ご出席者皆様よりご意見・講評			
	④閉会の挨拶 かんだ連雀:中村小夜子			
保留事項				

詳 細
①開会の挨拶
かんだ連雀:中村小夜子
○管理者をしております中村と申します。建物全体の中では特養の次長を務めております。
兼任と言う形で、昨年度から管理者をさせていただいております。
さまざまことで4年間、コロナの影響で書面開催となっていましたが、やっと皆さんの顔を合わせて直接報告ができる会を持たせていただいて大変感謝しております。
ご意見等がございましたら、ぜひお聞かせいただければと思います。
②取り組み事例発表
かんだ連雀いつでもサポートサービス:尾崎正紀、渡嘉敷和也
定期巡回では、月に一度、勉強会と称してグループ内で、サービス内容の検討やサービス終了者の振り返りをテーマに討論を行っています。この半年の間に定期巡回サービスを終了された利用者様の中に、奇しくも長期ご利用いただいた方が重なりました。それぞれ状況も異なる方々ではありますが、共通していたことがいくつかあり、振り返りの中から多く得ることがありましたので、今回の発表で皆様にお話しさせて頂こうと思立ちました。
3名の利用者様のサービスから終了までを簡単に紐解き、尾崎と渡嘉敷で発表。
3名の利用者様の援助に関わった訪問看護様のアクア訪問看護、九段訪問看護に
それぞれご意見をいただく。
●九段訪問看護ステーション
OH様の方で長く関わらせていただきました。ADL等、お1人暮らしは厳しいのではないか言う状況だったのですが、定期巡回が入ることで、この方の長い独居生活が続いてたのだなと思いました。
長男さんは介護に親身になっていただきました。ヘルパーたちとの関りが強く、徐々に認知も進んでしまって
独り暮らしの不安はありましたが、「お友達が施設に入ったから」とパンフレットをもってきて「(施設に)入ろうかしら…でも見に行ったら嫌だった」とかを繰り返しながら最後は諦めるというか何というか、やはり1人で
いることの寂しさ、ご家族が居なくなったり娘様が亡くなったりと損失感の強い状況だったと思います。
11年間は大変だったとは思いますが、ヘルパーの支えをすごく感じました。
(かんだ連雀:尾崎)
○階段の上り下りは、デイサービスへ行かれるときに準備もそうですが、ご本人も気合いが必要です。

<p>車椅子から立って階段にさあ下りましようと言うのは我々が思っている以上に怖い動作になります。</p> <p>介助があるとは言え、慣れていないヘルパーが訪問すると尻込みされてしまい「大丈夫かしら？」と不安感が強く出ていました。新しいヘルパーが入る時は、古株のヘルパーを同行させて一緒に行くから大丈夫と声掛けを行い、ご本人の不安感の軽減をはかり対応しておりました。</p> <p>日常生活で転んでしまったときも随時訪問に到着時には、自分で汚れたところを掃除され、車椅子に戻れていたこともありました。緊急時は、ご本人はまず長男様に電話をされ、長男様から連雀の方に連絡が来ると事が多くありました。1番に連雀へご連絡していただけるよう関係性をより深められていれば辛い時間を少しでも短くできたのではないかと思います。</p>
<p>●アクア訪問看護</p> <p>○T様とK様に関わらせていただきました。</p> <p>独居の方が認知症をもっていてご自宅で生活できるんだと認識させられた証例でありました。</p> <p>やはりヘルパーの支え、家族の支えがあつての在宅支援であつたと思います。</p> <p>お二人ともあまり周辺症状がなかったのですが、そこから段々と進行してきて排泄等が日常の援助がままならなくなったところで、ご家族や周りの人たちが「そろそろ一人は厳しいかな」と判断されていった印象です。Kさんの方は最後水頭症を発症してから少し様子が変わってしまい、ヘルパーの方たちもかなり困ったところが多かつたのではと思います。</p> <p>水頭症発症前から関わっていらつしたため、上手にコントロールしている印象でした。</p>
<p>(かんだ連雀:尾崎)</p> <p>○今お話をいただいたKさんですが、サービスの開始当初はご自分で自立されている気持ちが強く、1日1回の援助でも「来なくていいわよ。」と拒否的な態度でした。援助に中々入りづらい方であつたので、まず援助に入るメンバーを少人数に絞り、顔を覚えてもらうという事を優先しました。</p> <p>会話でもすぐに「お薬飲みましたか？飲んでください。」と援助を強調せず、少し会話をして打ち解けるまで待つよう対応を工夫しました。その結果、段々とお話ができるようになりました。買い物に関しては、最初のうちは一緒に行けていたのですが、足腰の衰えも始まり、ご要望を聞いて買物代行に切り替えるようになりました。その頃には、毎日援助に行つて怒られなくなり、ご自分の身体が不自由になってくると「ヘルパーが来てくれないかしら。寂しいわ。」と気持ちに変化してきました。</p> <p>ピークの際は電話を切つた後にすぐに電話をかけて切つてすぐに電話をかけて切つての繰り返しで本人も「何で電話しているんだろ？」とご自身でも行動が分からなくなつていた状態でした。その当時は</p>

一番不安も高まっていたはずなので訪問回数を増やす事で安心してお過ごしになられたかなと思いました。

●八丁堀ケアプランセンター

○私も1ケース定期巡回をお願いしていて、こう言う最初の発見を介護さんがしていただけるので本当に助かっています。ご利用様の生活で薬の飲み間違いだったり転倒することは当たり前にある事でそれを一番最初に発見して私たちや看護師さんに報告して下さるのはとても助かっております。それが長く在宅生活ができるんだなと改めて思いましたし、こうしたケースの振り返りをしているのも初めて聞きましたので積み重ねが新しい利用者様に繋がるんだなと思いました。

(かんだ連雀:尾崎)

○最初にケアマネジャーさんから依頼をいただくのは服薬促しが多いです。

1日に1回や1日に3回程あり、訪問介護では複数回対応が難しいため定期巡回でお願いがされる

ケースがほとんどです。実際、認知症があって毎日規則正しく飲めない方もいらっしゃいますし、

いざ援助に入ってみるとお薬カレンダーをうまく使えない方もいらっしゃいます。服薬のために定期巡回は

あるとは思っていません。逆に言いますと、どんな援助が必要か分からないからこそケアマネジャーさんはお試して定期巡回を使っていたら、大体分かってきたところで毎日の援助は不要になったら訪問介護に移行されることもあります。

定期巡回の利便性を活用することで今後のサービスに繋いでいただければと切に願います。

●川上朋美様:神田居宅(知見を有するもの)

○T様のお話を聞いていて思ったことは、1日1回から入って行って配食(弁当)を使ってみたり定期巡回で全てが賄える・・・人材難の中で3回も4回も入ってほしいけど、でも人の手配は中々大変かと思うんですけど、そういう意味では配食のサービスとか色々な社会資源をうまく活用されて、約6年間過ごされたと思います。私のケースで、配食弁当が受け取れなくて定期巡回さんが随時訪問で受け取ってくれたり助かったことが何回かあった。定期巡回は必要なところをキチンとやっていただいて、他でデイサービスもそう配食弁当もそう社会資源もそう色々なもの組み合わせたサービスが構築されているんだなと思いました。

(かんだ連雀:尾崎)

○T様は当初、ご家族の方が3食全ての食事をご用意されていました。

ご家族の負担も増え、夕方のみ配食弁当を導入されましたが、

デイサービスでの体重測定を元に、食べすぎの際は食事の量を減らしたりコントロールされていました。

「こう言うサービスできませんか？」と提案をいただき、体力維持のための散歩同行を行ったり、ご家族と共に支援できました。娘様は2人共、遠方でお住まいでしたが毎週通われ、それぞれに役割分担がされ、協力しながら介護される理想的なご家族でした。

④閉会の挨拶

かんだ連雀：中村小夜子

○ご意見、関わっていただいた訪看さんに関して、事例に関してお伝えいただきありがとうございます。定期巡回ですけれども、かんだ連雀は訪問介護も併設していて、定期巡回にも訪問介護にも行っている状況であります。先程尾崎が申しおりました、定期巡回を使って慣れてきたら訪問介護に行ってもいいかと。逆に訪問介護を使っている中でヘルパーの方から状態が変わってきており全体を見た方が良いのではないかとケアマネージャーに提案させていただいて定期巡回に変わる方も中にはいらっしゃいます。そこの手の届かないところに私たちが気づいて、その方ができるだけご自宅で生活できるように続けてお手伝いさせていただきたいなと思っています。

今事例を聞いていると3名共、施設へ入居というところがあったと思うのですが、定期巡回は随時対応があり、やはり急に看取りの対応で定期巡回でと言うのは経験したのですが、常に見守りが必要で何か危険な状況に成り得る方に関しては定期巡回の職員が随時でその都度その都度行くというのは、すごく難しいことなのだなと。自宅でその方らしいこだわりをもって生活されているのが、3名様ともそういう方であったのですが、それが続けられない…人手の問題と常に見ることができないというところが大きな課題なのかなと思っています。そこを自分たちで諦めずに本人様だったりご家族様の話し合いの上で入居を決めるところに関しては私たちは協力していく姿勢で行こうと思っています。

やはり地域の方に支えられて私たちの事業も成り立っているんだと思いました。

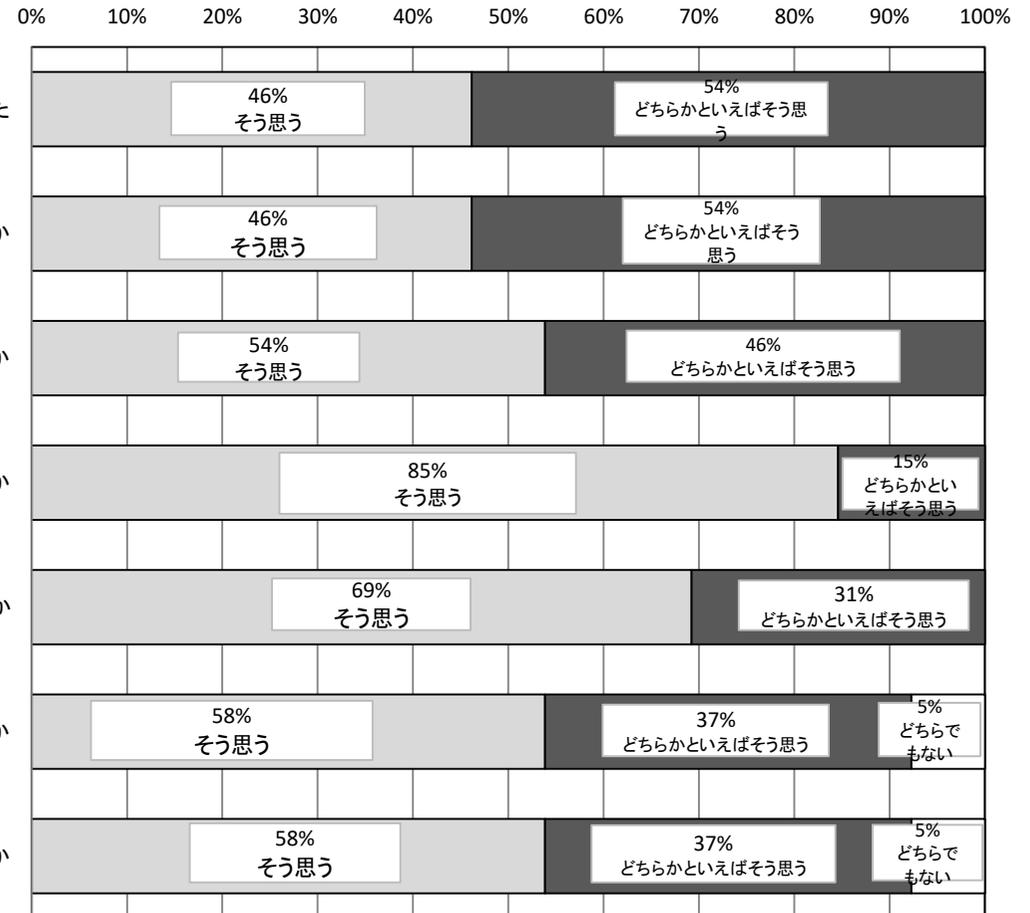
本当に皆様との関わり、地域の方の関わり、限りある資源を有効活用していくところをこれからも目線を広くもって、さまざま事例に利用者に対応していけるように努めていきたいと思っています。

ご意見以外に苦情等、何かありましたら仰っていただきたいと思います。

それがないと「私たち出来ているんだ。」と思い込んでしまう部分があるので、ちょっとした事でも構いませんので何かあれば教えていただければと思います。

今後とも皆様よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

2023年度9月 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 かんだ連雀いつでもサポートサービス 事業評価結果



⑧ご意見、ご要望など：

- 利用者個々人の記録がきちんと取られている。その上で個別対応が取られているのが素晴らしい。症状・サポート内容などの記録が詳しい。具体的な利用者の事例紹介が参考になった。利用者として近年問題になっているサポート側へのハラスメントが気になる。そのような報告と対応があれば共有して頂きたいし、利用者家族としても心掛けるきっかけにしたい。
- 年度ごとにどのくらい利用者数があったのか、その変化なども数値わかるといいのかなと思いました。最初の異変気付くという、とても大きな役割を果たされているのだと思いました。
- 定期巡回サービスは最も利用者身近な存在になります。生活実態や利用者の変化を日々察知する中で理想とする生活像等、支援者の思いも個人個人で発生するかと思います。個人の思いをいかにチームで共有し統一化していくか、その過程(事例)を知りたいです。